

保健体育科学習指導案

期 日 平成24年5月25日（金）第1校時
 場 所 附 属 中 学 校 校 庭
 対 象 1年1組（男子20名，女子20名，計40名）
 指導者 教 諭 西 山 泰 佑

1 単元 球技 ベースボール型（ソフトボール）

2 単元のねらい

(1) 目標

ソフトボールの特性を理解しながら課題に応じた運動の取り組み方を工夫し、基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開することで，勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができるようにする。

(2) 評価規準

【運動への関心・意欲・態度】

- ア ソフトボールに積極的に取り組もうとしている。
- イ チームや個人で勝敗を競うことを通して，ルールや相手を尊重したり，マナーを守ったりしてフェアなプレイに取り組もうとしている。
- ウ 練習やゲームを行う際に，用具の準備や後片付け，記録や審判，ポジションなどの分担された役割に積極的に取り組もうとしている。
- エ 自己やチームの課題解決に向けて，自らの考えを述べたり，他者の考えを理解しようとしたりして積極的に話合いに参加しようとしている。
- オ 捕る，投げる，打つ，走るなどの練習において，仲間と互いに練習の補助をしたり，助言をしたりしながら取り組もうとしている。
- カ ボールやバットなど用具の扱い方や練習場所などにおいて，自己や仲間の安全に留意したり，自己の技能や体力に合った運動をしたりして取り組もうとしている。

【運動についての思考・判断】

- ア 基本的なバット操作やボール操作，また，ボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるため，運動の行い方におけるポイントを見付けている。
- イ 自己やチームの課題を見付け，提供された練習方法の中から，課題に応じた練習方法を選択している。
- ウ 仲間と協力して練習やゲームを行ったり，用具の準備や後片付けを行ったりする場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。
- エ 身体の調子や，用具管理，練習場の安全に留意して，適切な練習方法やゲームの仕方を選択したり，考えたりしている。

【運動の技能】

〔攻撃〕

- ア 投球の方向と平行に立ち肩越しにバットを構えている。
- イ 地面と水平になるようにバットを振り抜いている。
- ウ タイミングを合わせてボールを打ち返している。
- エ 全力で走りながら、タイミングを合わせて塁を駆け抜けたり、減速、反転を利用して塁上に止まったりしている。

〔守備〕

- ア 投げる腕を後方に引く動きに連動させて投げる腕と反対の足を踏み出し、大きな動作でボールをねらった方向に投げている。
- イ ボールの正面に回り込んで、ゆるい打球を捕っている。
- ウ 自分の守備位置から塁上に移動して、仲間の送球を正面で受けている。
- エ 守備位置に立ったときに準備姿勢をとり、ポジションの役割に応じてベースカバーやバックアップの基本的な動きをしている。

【運動についての知識・理解】

- ア ソフトボールの簡易なゲームの行い方の特徴や成り立ちについて理解している。
- イ ソフトボールにおいて用いられる技術の名称やその具体的な行い方について理解している。
- ウ ソフトボールの練習やゲームを行ったり、技術と関連させた補助運動を行ったりすることで巧み性、敏捷性、瞬発力、筋力などの体力が高まることを理解している。
- エ ソフトボールの簡易なゲームのルール、審判や運営の仕方について理解している。

3 球技 ベースボール型（ソフトボール）の特性

(1) 一般的特性

- ア ボールやバットなどの道具を用いて、攻撃と守備を規則的に交代しながら試合を行う。試合ではボールを打って走者を進塁させたり、打球の捕球や送球によってアウトをとったりして、規定の回数内で得点を取り合い、失点を防ぎ合い勝敗を競い合うスポーツである。
- イ 練習やゲームを通して集団的スキルや個人的スキルを高め、多彩な体力の要素を含んだ全身運動であり、送球や打球などのタイミングのとり方や、ボールを打つ、捕る、投げる、また、塁上を走るといった身体をうまく操作する能力などを必要とするので、巧み性や敏捷性、瞬発力、筋力、筋持久力など、総合的な体力が必要とされるスポーツである。
- ウ 一人ひとりがそれぞれの役割を分担しながら互いに協力し、練習やゲームを進めていくことで、チームの課題や自己の能力に応じた課題解決の方向性が見えやすいスポーツである。また、助け合ったり教え合ったりするなど人とのかかわりを深めることができるスポーツである。
- エ 攻撃と守備が完全に分かれ、チームとしての作戦や戦術が重要となる。よって、判断力、注意力、自らの責任を果たす力、互いに協力し合う態度など社会生活に必要な力や態度、道具や周囲の環境などの安全に対する配慮が要求されるスポーツである。

(2) 生徒の側から見た特性

- ア ボールをバットで打ち返すことができたり、狙ったところにボールを投げられたりしたときが楽しい。
- イ 仲間と練習したことが、ゲームで生かされたときが楽しい。
- ウ ボールを捕ったり打ったりするのが上手にできないとチームに迷惑がかかるところが不安である。
- エ バットやボールが体に当たると危ないところが不安である。

4 生徒の実態

(1) 体育の授業は好きですか。

好き	52%
どちらかという好き	30%
どちらかという嫌い	7%
嫌い	11%

(2) 体育で行う運動やスポーツは得意ですか。

得意	17%
どちらかという得意	40%
どちらかという苦手	23%
苦手	20%

(3) 体育の授業で、あなたはどの種目を楽しみにしていますか。(上位2つを選択)

球技 (バレーボール, サッカー, バスケットボール, ソフトボール)	72%
水泳 (クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, バタフライ)	35%
武道 (柔道か剣道のどちらかを選ぶ)	25%
陸上競技 (短距離走, 長距離走, リレー, 走り幅跳び, ハードル走)	23%
ダンス (創作ダンス, リズムダンス, フォークダンス)	23%
器械運動 (マット運動, 跳び箱運動)	15%
体づくり運動 (ダブルダッチ, トレーニングなど)	5%

(4) ベースボール型の種目の中で、これまで経験したことのある種目はありますか。

(当てはまるものを全て選択)

ティーボール	65%
キックベースボール	62%
ソフトボール	42%
ハンドベースボール	35%
どれもしたことがない	0%

(5) (4)で「ソフトボール」と答えた人はソフトボールが得意ですか。

得意	18%
どちらかという得意	53%
どちらかという苦手	18%
苦手	11%

(6) (4)で「ソフトボール」と答えた人はソフトボールのどのような動きができたとき楽しさを感じましたか。(1位～4位までを順位付け)

	1位	2位	3位	4位
ボールを投げる動き	12%	24%	40%	24%
ボールを捕る動き	6%	29%	41%	24%
ボールをバットで打つ動き	70%	12%	18%	0%
ベース上を走る動き	6%	41%	0%	53%

(7) ソフトボールは好きですか。

好き	27%
どちらかという好き	40%
どちらかという嫌い	22%
嫌い	11%

(8) (7)で「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた人はその理由の上位2つを選択しなさい。

ボールを捕ったり、ボールを打ったりするのが苦手だから	85%
ルールが複雑でよく分からないから	69%
ボールやバットなど危険で怖いから	23%
試合時間が長いので疲れるから	7%

(9) ソフトボールの学習で、自分が不安だと思う動きは何ですか。(1位～4位までを順位付け)

	1位	2位	3位	4位
ボールを投げる動き	38%	28%	21%	13%
ボールを捕る動き	21%	45%	21%	13%
ボールをバットで打つ動き	26%	15%	28%	31%
ベース上を走る動き	21%	8%	28%	44%

(10) これからソフトボールの学習を行います。身に付けたい動きは何ですか。

(1位～4位まで順位をつけなさい)

	1位	2位	3位	4位
ボールを投げる動き	30%	35%	30%	5%
ボールを捕る動き	25%	35%	33%	7%
ボールをバットで打つ動き	38%	22%	20%	20%
ベース上を走る動き	7%	7%	20%	66%

(11) ソフトボールの学習で、身に付けたい態度は何ですか。(上位2つを選択)

仲間と協力して学習する態度	62%
自分に分担された役割を果たそうとする態度	45%
運動に積極的に取り組む態度	37%
チームの話し合いに積極的に参加する態度	25%
フェアなプレイを守ろうとする態度	15%
健康や安全に気を配る態度	15%

(12) チームメイトと協力して、チームプレーをすることについて、どのように思いますか。最も近いものを選び、理由まで答えなさい。

得意	32%
どちらかという得意	40%
どちらかという苦手	28%
苦手	0%

(考察)

質問1より、体育の授業は好き、どちらかという好きという生徒が82%もあり、体育に対して好意を持っている生徒がほとんどであるが、質問2から、好意を持っているが、運動が得意でないと思っている生徒もいるということが分かった。また、質問3では運動領域の中で、球技を楽しみにしている生徒が最も多い72%だった。また、質問4のようにソフトボールをこれまで経験したことがある生徒は42%と半数にも満たないことが分かった。ソフトボールを経験している生徒が、動きにどんな楽しさを実感しているのかという質問に対し、バットでボールを打つ動きを挙げている生徒が多いことが分かった。

しかし、一方では、質問7でソフトボールが嫌い、どちらかという嫌いと答えた生徒が33%いることも分かった。嫌いになった理由の中で最も多かったのはボールを捕ったり、ボールを打ったりするのが苦手だからという個人的技能に不安を感じていたり、ルールが複雑でよく分からないという知識面に不安を感じたりしている生徒が多いことが分かった。また、ソフトボールの学習を行うときに不安に思う動きはボールを投げたり、捕ったりする動きが比較的多く、ソフトボールの学習で身に付けたい態度は仲間と協力して学習する態度が62%と最も高かった。

以上のことから、ルールを生徒に分かりやすく伝える工夫をするとともに、仲間と協力しながら技能を高めていけるような授業を展開することで、生徒がより一層ソフトボールの特性に触れ、楽しむことができるのではないかと考える。

そこで、学習資料を活用し、ルールやポイントなどを明確に提示したり、技能のポイントを明確に提示したりすることが重要であると考え。また、仲間との教え合いを充実させるために、ソフトボール経験者と未経験者を混ぜるなどチーム編成を工夫し、互いに協力しながら練習に取り組む授業を展開していきたいと考える。

5 球技 ベースボール型（ソフトボール）学習・指導の意義

- (1) 個人の技能やチームの実態をもとに、その能力に応じた練習内容や課題を設定し、段階的に課題を解決していくことで、ヒットを打って得点したり、アウトをとったりする経験を通して、個人や集団での達成感や喜びを味わうことができ、運動に親しむ習慣や態度を育てることができる。
- (2) ソフトボールの特性から、巧み性や敏捷性、瞬発力、筋力、筋持久力などの体力やタイミング、スピードなどに対する感覚的な機能を高めることができる。
- (3) 互いに協力しながら練習やゲームを行い、課題解決に向けて、助け合ったり教え合ったりすることを通して、人とのかかわりを深めることができる。
- (4) ゲームでは作戦や戦術、連携プレイが重要であり、判断力や注意力を高めることができる。また、自己やチームの課題解決のために、計画的・段階的に自己の責任を果たしたり協力したりしながら学習を進めていくことで、社会生活に必要な望ましい行動や態度を身に付けることができる。

6 球技 ベースボール型（ソフトボール）学習指導上の方針・方策

(1) 知識と技能を高める工夫【「わかる」と「できる」】（研究冊子 保体-6-(1)参照）

ア ソフトボールの技術（基本的なバット操作、走塁、ボール操作、定位置での守備など）のポイントを理解させるために、学習資料を活用する。学習資料には、運動の準備局面、主要局面、終末局面ごとに動きのポイントを明確に示し、必要に応じて解説する。具体的には、バッティングフォームのテークバック、インパクト、フォロースルーのイラストにポイントを記述されたものを示し、一連の動きについて理解させる。

イ 動きのポイントを理解させるために、ポイントを押さえた教師の動き（示範）、生徒の動き（モデル提示）を観察し、ポイントを押さえた動きを確認させる。具体的には、送球時の体の向きや視線などを観察させ、ポイントに気付かせる。

ウ ポイントを押さえた動きができていのかどうかを理解させるために、自己の課題となる動きの模倣を観察し、理想の動きと自己の動きのズレを確認させる。具体的には、基本的なバット操作を行うときに、バットの軌道などを観察させて、自己の動きとのズレを確認させる。

エ ポイントを押さえた動きを身に付けるために、主運動につながる類似運動を補助運動として取り上げ、必要な身体感覚を培ったり、体力を高めたりすることができるようにする。また、補充学習の場で、類似運動のポイントを再確認させることで、より一層、技術の理解を図らせる。具体的には毎時間、ボールピックアップを取り入れ、ボール操作に必要な身体感覚を身に付けさせる。

オ ポイントを押さえた動きを身に付けさせるために、教師の動き（示範）、生徒の動き（モデル提示）など、理想とする動きを真似するといった活動を取り上げ、必要な身体感覚を培ったり、体力を高めたりすることができるようにする。具体的には、ベースランニングの仕方について、体の傾け方やコースのふくらみ方に着目させて模倣させる。

(2) 思考力・判断力を高める工夫【「わかる」と「できる」をつなぐための「考える」】

（研究冊子 保体-8-(2)参照）

ア 理解した動きのポイントと身に付けようとする技能をつなぐために、学習を通して考えたことや気付いたことを、思考カードに整理、記述させ、自らの動きをフィードバックさせるのに役立たせる。具体的には、ボール操作を行うときに準備姿勢やキャッチング、スローイング、フォロースル

ーなどの動きのコツについて、自分なりの言葉で記述させる。

イ 理解した動きのポイントと身に付けようとする技能をつなぐために、思考カードを教師と生徒でやりとりする。そうすることで、生徒の課題解決状況を見とったり、つまずきや疑問点等に対して、アドバイスを行ったりする。具体的には、送球の方向が定まらない生徒に対して、グローブやつま先の向きといった観点からアドバイスをする。

ウ 理解した動きのポイントと身に付けようとする技能をつなぐために、技術や戦術について、動きの局面あるいは一連の流れの中での身体部位の使い方に着目して、できる姿をイメージさせる。イメージを鮮明に持たせるために、体の向きや視線を定めて、身体部位の協応動作を確認させる。

(3) その他

ア オリエンテーションにおいて、生徒に学習の見通しを持たせるために、各学年での技能の到達目標やつながりを明確に示した学習計画を示す。

イ オリエンテーションにおいて、ソフトボールのゲーム様相を理解させ学習意欲を高めさせるために、プロジェクターとスクリーンを利用して北京オリンピックの女子日本代表の映像を視聴させる。

ウ 課題を明確に捉えさせたり、自己の変容を客観的に捉えさせたりするために自己評価や他者評価をさせる。

エ ケガ防止や、ボールに対する恐怖心を和らげるために、柔らかいクッションボールで練習やゲームを行わせる。

オ 勝敗を競い合う楽しさに触れさせるために、レディネステストなどを参考に、チーム力に偏りがないような男女混合グループのチーム編成を行う。

カ まとめにおいて、学習の成果を試させたり、互いの技能の変容を認め合わせたりするために、簡易なルールで試合を行わせる。

キ ソフトボールの学習を段階的に進めるために、単元の学習を「オリエンテーション」「基本的な技能習得の段階（送球・捕球）」「基本的な技能習得の段階（打撃・走塁）」「まとめの段階」の4つに編成し、合計10時間の学習に取り組ませる。

ク 自己の活動を振り返らせたり、自己や他者の考えを更に深めさせたりするために、学習カードを活用させる。

7 球技 ベースボール型（ソフトボール）学習・指導計画

段階	学習内容及び学習活動			指導計画、学習過程の工夫
	技能の内容	態度の内容	知識○・思考・判断(●)の内容	
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 準備運動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 附中体操 ◇ レディネステスト <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴロ、フライの捕球 ◇ 補助運動づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレッチ ・ ボールピックアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の場や用具の準備、後片付けに積極的に取り組もうとする。 ・ 体調の変化に気を配りながら健康に気を付けたり、用具や練習場所などの安全に気を配ろうとしたりする。 ・ 補助運動で約束事を守り、仲間や相手を尊重しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ソフトボールの歴史、特性、用具の使用、安全面の留意事項、単元の見通し等について理解を深めることができる。 ○ 補助運動づくりを通して、ソフトボールで求められる動きに関する体力（瞬発力、敏捷性、巧み性、筋力など）について理解することができる。 ● 補助運動での動きのポイントを見付けることができる。 	<p>【1時間目】</p> <p>オリエンテーション【意欲・技能・知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーションでは、ソフトボールの歴史、特性を理解させる。 ・ 授業での約束事項や用具の準備などを理解させる。 ・ 補助運動づくりを行い、ソフトボールに必要な動きや体力について理解させる。
基本的な技能習得の段階「送球・捕球」	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 送球・捕球 「ボール操作」「定位での守備」 ・ キャッチボール、ボール回し ・ ゴロやフライの捕球 ・ 手投げノック ・ ノック ・ チーム対抗による捕球・送球ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習でのルールを守り、仲間や相手を尊重しようとする。 ・ 練習で使う用具の準備や後片付けを積極的に取り組もうとする。 ・ 課題の解決に向けて、他者との話し合いに責任をもって積極的にかかわろうとする。 ・ 課題の解決に向けて、動きのコツを探しながら練習に積極的に参加しようとする。 ・ 体調の変化に気を配りながら健康に気を付けたり、用具や練習場所などの安全に気を配ろうとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 送球や捕球の動きについて理解し、具体的に説明することができる。 ○ 練習を通して、ソフトボールで求められる動きに関する体力（瞬発力、敏捷性、巧み性、筋力など）について理解することができる。 ● 自己や他者の課題を具体的に見付けることができる。 ● 送球や捕球の動きができるようになるために、自己や他者の動きのポイントやコツを見付けることができる。 	<p>【2時間目】</p> <p>試行、課題設定【意欲、知識、思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イラストや教師の示範で送球や捕球の仕方を理解させる。 ・ イラストや示範と自己や他者の動きにどのような違いがあるか観察し、次時の練習内容について見通しをもたせる。 <p>【3時間目】</p> <p>相互練習【意欲、思考・判断、技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ねらった所にボールを投げたり、定位で捕球をしたりする練習をすることで、技能を高めさせる。 <p>【4時間目】</p> <p>成果の確認【意欲、技能、思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習した送球と捕球の技能を生かし、成果の確認を通してまとめさせる。
基本的な技能習得の段階「打撃・走塁」	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 打撃・走塁 「基本的なバット操作」「走塁」 ・ 止まったボールのバッティング（バッティングティーを使用） ・ トスパッティング ・ ベースランニング ・ チーム対抗によるバッティング&ランニングゲーム ・ フリーバッティングを基にしたゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習でのルールを守り、仲間や相手を尊重しようとする。 ・ 練習で使う用具の準備や後片付けを積極的に取り組もうとする。 ・ 課題の解決に向けて、他者との話し合いに責任をもって積極的にかかわろうとする。 ・ 課題の解決に向けて、動きのコツを探しながら練習に積極的に参加しようとする。 ・ 体調の変化に気を配りながら健康に気を付けたり、用具や練習場所などの安全に気を配ろうとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールをバットで打つ動きについて理解し、具体的に説明することができる。 ○ 練習を通して、ソフトボールで求められる動きに関する体力（瞬発力、敏捷性、巧み性、筋力など）について理解することができる。 ● 自己や他者の課題を具体的に見付けることができる。 ● どうしたら速く塁を回れるか考えることができ、タイムの高まりから、走塁の技能のポイントを理解することができる。 ● ボールをバットで打つ動きができるようになるために、自己や他者の動きのポイントやコツを見付けることができる。 	<p>【5時間目】</p> <p>試行、課題設定【意欲、知識、思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イラストや教師の示範で打撃や走塁の仕方を理解させる。 ・ イラストや示範と自己や他者の動きにどのような違いがあるか観察し、次時の練習内容について見通しをもたせる。 <p>【6時間目】</p> <p>相互練習【意欲、思考・判断、技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者が投げた易しい投球を打ち返す練習をすることで、技能を高めさせる。 <p>【7時間目】</p> <p>成果の確認【意欲、技能、思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習した打撃と走塁の技能を生かし、成果の確認（ゲーム）を通してまとめさせる。
まとめの段階	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ゲーム ・ 大会（簡易ルールによる試合） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習し、練習してきたことを精一杯プレーで出そうとする。 ・ チームで努力したことを認めようとする。 ・ ゲームの中で、自己に与えられた役割に、責任をもって取り組もうとする。 ・ 体調の変化に気を配りながら健康に気を付け、用具や練習場所などの安全に気を配ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームについてのルールや進め方、審判の方法について理解することができる。 ○ ソフトボールにおける勝敗を競う楽しさや喜びを理解することができる。 ● チームで試合の結果と内容を反省し学習のまとめをすることができる。 ● 学習した安全上の留意点を当てはめて考えながらソフトボールを行うことができる。 	<p>【8・9・10時間目】</p> <p>まとめ【意欲、技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで身に付けた技能を生かし、試合を行わせる。 ・ ソフトボールの単元を通して、自己やチームの技能の変容に気付かせる。

8 本時の実際

(1) 指導区分 4/10

(2) わらい

- ア 積極的に仲間とかかわりながら練習に取り組もうとしている。
- イ 自他の変容について気付いたことを思考カードに記述している。
- ウ ボールの正面に回り込んで捕球をしたり、狙ったところに送球したりしている。
- エ 送球と捕球をする際の動きのポイントを理解し、用具や場所の安全に留意しながら練習に取り組んでいる。

(3) 本時の学習過程

学習過程	時間	学習内容及び学習活動	留意点(○)及び援助・支援(●)
準備運動	3	<p>はじめ</p> <p>附中体操 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用具の確認, 練習場, その周辺の安全確認を行う。 ○ 出欠の確認, 健康状態を把握し, 見学者への指示をする。
補助運動	7	<p>補助運動 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ボール操作に必要な身体感覚を身に付けるための補助運動の導入 【指導案 6-(1)-エ】
学習課題の確認	3	<p>学習課題の確認 3</p> <p>確認</p> <p>確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 前時までの活動を振り返らせ, チーム課題や個人課題を明確に持たせるための学習カードの活用 【指導案 6-(3)-ク】 ○ 前時までの活動を振り返らせ, 共通の学習課題を確認し, 主体的な課題解決の学習に取り組ませる。
相互練習	10	<p>相互練習 4</p> <p>練習 (確認・観察練習)</p> <p>○ 手投げノック ・ チームメイトの動きの観察</p> <p>補脱</p> <p>補足的な学習</p> <p>診断</p> <p>NO</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 送球と捕球のイメージを持たせるため, 基本的な動きのポイントを示した学習資料の提示 【指導案 6-(1)-ア】 ○ チームリーダーを中心に, 練習の場や内容を確認し, 主体的に練習に取り組ませる。 ● 自己やチームのうまくいかない動きを客観的に分析させるための教師や生徒同士の模倣活動 【指導案 6-(1)-オ】 ● 送球と捕球の練習で考えたこと気付いたことを出させ, 動きのイメージを明確に持たせるための思考カードの活用 【指導案 6-(2)-ア】
学習成果の確認	18	<p>学習成果の確認 5</p> <p><捕球・送球ゲーム></p> <p>・ ゴロ, フライの捕球 ・ 送球 (的当て) 捕球と送球を得点化し, 最高3ポイントで得点を競うゲーム。チームに分かれて行う。</p> <p>診断</p> <p>YES</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 捕球や送球動作がうまくいかない生徒に, 動きのポイントを再確認させるための補足的な学習の場を設定する。 ● 捕球や送球のイメージを持たせるための動きのポイントを強調した教師の師範の観察 【指導案 6-(1)-イ】 ● 相互練習や捕球・送球ゲームで考えたことを自己, または, 他者(生徒や教師)が観察し, 考えを更に深まらせるための個人記述の学習カードの活用 【指導案 6-(3)-ク】
反省評価	5	<p>本時のまとめ 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思考カードや学習カードをもとに, うまくいったところや修正するところ, 新たな課題について発表させる。
課題把握	2	<p>次時の課題把握 7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ストレッチを行い, ケガや体調不良がないか運動後の自己の身体の状態に気付かせる。 ○ 健康状態の確認と, 道具の後片付けの確認をさせる。
整理運動	2	<p>整理運動 8</p> <p>おわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ストレッチをする。 ・ あいさつを行う。 ・ 用具の後始末をする。